

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	EGFR 遺伝子変異状況毎の病理病期 II, III 肺腺癌切除後プラチナベース術後補助化学療法の有効性評価
	研究目的	現在進行期肺癌切除後の予後を改善させるために, stage II, III 肺癌に対してはプラチナベース術後補助化学療法(PBAC)がおこなわれている. どのような肺癌患者がPBACの効果が高いのかは不明である. 肺癌の約50%で認められる遺伝子変異である epidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異の有無が PBAC の効果に影響しているかどうかは不明である. 本研究では2002/1-2016/4に原発性肺癌に対して完全切除を行った stage II, III 肺腺癌のうち EGFR 遺伝子変異状況が判明している 305 例を対象とし, EGFR 遺伝子変異状況が PBAC の効果に影響しているかどうかを解析する.
	研究期間	西暦 2018 年 6 月 15 日 ~ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	研究責任者	伊藤宏之
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし